



長崎被災協・被爆二世の会・長崎

二世の会ニュース

NO.15

一発行日一
2017年
4月24日

〒852-8115 長崎市岡町8-20 被災協気付

☎ 095-844-0958

hisaikyo2sei@yahoo.co.jp



「ヒバクシャ国際署名」街頭宣伝

12月26日（月）16時～17時、田上富久長崎市長を先頭に被爆者団体や賛同団体から70名近くが参加し「ヒバクシャ国際署名」行動を行い、402筆の署名が寄せられました。二世の会から6名が参加しました。

12月23日国連総会では「多国間核軍備撤廃交渉の前進決議」が113か国の圧倒的多数の国の賛成で採択され、署名が求める「核兵器を禁止廃絶する条約」を交渉する会議招集を国連が決めた歴史的な日の直後であり、「決議」を大歓迎する行動でした。

「うたごえ」の「一人から一人へ」の演奏、「県民の会」共同代表のヒバクシャの谷口稜暉さん、地球市民集会の朝長万左男さんの訴え、代表賛同人である長崎市長はマイクを握り、道行く人へ「核兵器の禁止へ国際政治の大きな変化が見える、「ヒバクシャ国際署名」はそれを後押しする大きな意義をもつ、多くの方が賛同を寄せてほしい」とお願いしました。長崎平和推進協会の横瀬昭幸さん、被爆者の手帳友の会の井原東洋一さん、被爆者手帳友愛会の中島正徳さんも署名賛同をそれぞれ訴えました。（佐藤澄人・理事）



吉田勲さんから被爆体験を聞く

1月14日（土）13時半から被災協地下講堂で、年明け最初の勉強会を行い、長崎被災協の理事をされている吉田勲さんの被爆体験を聞きました。

吉田さんは、当時4歳。おばあ様と二人で爆心地から3.9キロ離れた中新町の自宅にいた時に被爆され、その後避難した防空壕での光景、その後の人生などを話されました。

吉田さんのお話は「被爆者の定義」から始まり、具体的なデータなどを示し、体験していない私たちにもとてもわかりやすい内容でした。
（佐藤直子・会長）



被団協二世健康調査票発送作業

1月23日（月）、長崎被災協にて「被爆二世健康調査」の発送作業を、二世の会会員・賛助会員等9名にて行いました。

「被爆二世健康調査」は、日本被団協結成60年事業として全国一斉に行うもので、国や自治体の医療支援を考えるため、また、二世が親世代の体験と、運動を引き継ぐきっかけになればというものです。

長崎被災協では、被団協新聞読者や二世の会会員に、この日は約1,000通を発送しました。

発送作業の様子と調査の内容を、新聞、テレビ各社に取り上げて頂いたことで、被災協へ約50件の問い合わせがあり、会員以外の方からの関心の高さも分かりました。最終的には1,873通を発送しました。



今後、調査結果を基に、二世への医療支援や、被爆二世の役割・在り方などに反映することができたらと思います。連絡先を書かれた方には健康調査

の分析結果をお送りします。またこれから二世の会の行事などの案内を出すようにしたいと思います。
(赤水ますみ・理事)

日本被団協二世委員会

2月15日～16日、「日本被団協・第2回二世委員会」は日本被団協代表理事の5名、二世代表の5名が出席して行われました。

はじめに「被爆二世全国実態調査」の進行状況出し合いました。首都圏の二世委員3名と二世2名、事務局1名で作業グループを作り、3月末に研究者2名と話し合っ進めます。分析は時間がかかる見込みです。

そのあと二世の会、二世の活動について、それぞれの県やブロックの状況を出し合いました。二世委が今後どうあるべきか、戦略が必要であり、何を立法化するかなど決めていこうなど話し合われました。

二世の要求は厚労省、各自治体への要請内容は統一する。厚労大臣への要請書は3つの柱①健康調査②希望する二世には二世手帳を③ガン検診

そして、健診の通年化、医療機関、機会を増やす、二世健診結果の公表を求める、国会議員との懇談も必要であるなど出されました。

二世交流会が2012年に開催されましたが、そのあとは全国から東京に集まるのは財政的に難しいとされ、各ブロックで集まろうということになりました。しかし、5年経った今、全国から二世が集まることの重要性が出され、テーマを共有して話し合い、道筋を見いだしたいということになりました。学習、二世の思いが出し合える場にするため、内容について二世委員会の中で原案を出し、実行委員会形式にして、10月の日本被団協代表者会議に合わせ、開催の予定です。
(柿田富美枝・事務局長)

静美・重藤・マナーレ氏講演会

2月19日(日)13時半より15時、被災協地下講堂で重藤マナーレ静美さんを迎え、「“Seeds of hope”ー平和の種ー『48色の夢のクレヨン』」のDVD上映、講演会をおこないました。

米国在住の静美さんが、戦後復興期に広島県の爆心地にある本川小学校の子どもたちと米国の教会との心温まる交流があった実話を記録映画にしたもの。

静美さんはさまざまな芸術活動をしなが、毎年、日本被団協訪米団を受け入



れるなどのボランティア活動や平和活動を30年以上されていることもあり、講演をお願いしました。

原爆で破壊された広島の子どもたちが、アメリカの教会関係者たちから贈られたクレヨンや画用紙などで、当時に「こんなに夢のある絵が描けたなんて、ほんとうに驚き。」「子どもの力はすばらしいし、また先生たちもすごい。アメリカの心ある方々の支援も感動。」等、多くの感想が寄せられました。希望の種を蒔く、大事です。（佐藤澄人・理事）

第5回被爆者運動継承の学習交流会

3月4日（土）福岡県教育会館にて、九州ブロック被爆二世の会連絡会による学習交流会が行われ、佐藤直子会長・堀洋美理事・佐藤澄人理事の3人が参加しました。（長崎・福岡・佐賀・熊本・兵庫の二世12名、胎内被爆者2名参加）まずは、「二世委員会の現在の状況と私の問題意識等について」日本被団協二世委員会委員長の濱住治郎



さんによる報告があり、続いて福岡二世の会会長南嘉久さんより「被爆者運動継承の理論的、実践的課題について」の問題提起がありました。その後、参加者一人ずつ活動報告や意見などを述べましたが、どの県も被爆者の高齢化に伴い様々な形での継承活動をされていました。佐賀県二世の会は「会員が少ないため被爆者と一緒に活動をしている。被爆者の方が自宅に持っている原爆の資料などを集めている。」との報告がありました。熊本二世・三世の会でも「被爆者と一緒に紙芝居を作成し、小学校などで上演会を行っている。」ということでした。（佐藤直子・会長）

3月11日、ビデオ学習会、理事会

3月11日二世の会学習会は重藤・マナーレ・静美さん（広島県出身 大阪育ち 米国人のご主人と米国在住）の記録映画「ヒロシマの校庭から届いた絵」の鑑賞会を行いました。

広島市の爆心地にある本川小学校と米国の教会との戦後復興期の交流を描いた



作品です。製作期間は10年余りと聞きました。2015年から2016年にかけて在日アメリカ大使館の主催で全国のアメリカ領事館、日米各地の学校などで上映されました。

この映画を見て思った事は、戦争は国の一部分の人間が決めたことで多くの弱者が犠牲になる、しかし国民一人一人のお互いの気持ちの交流に心を打たれました。
(大越富子・理事)

4月2日須磨子忌



反戦と反核を訴えた原爆詩人・福田須磨子さんを偲ぶ会が命日にあたる4月2日、爆心地公園にある碑の前で行われ、約40人が集まりました。

一昨年前まで度々参加していた福田さんの姉、豊後レイコさんが昨年亡くなられたので、黙祷し冥福を祈

ったあと献花、活水高校の生徒による詩の朗読、歌が披露されました。

参加者のスピーチでは、「核兵器禁止条約の交渉会議に日本が不参加を表明したことを、須磨子さんはどんな思いで見られているのだろうか・・・」との発言があり、今の日本の危うさをあらためて感じました。

病をおして訴えつづけた福田さんを偲びながら、平和への思いを強くした会となりました。
(堀洋美・理事)

被爆二世健診が始まりました！

健康診断の申し込みは4月3日から来年2月9日までです。受診期間は4月10日から来年2月28日までです。本人の希望により、多発性骨髄腫検査を同時に受診できます。

長崎市在住の人で2017年度から前年度受診した人には前年度受診した月の前月までに受診票が送られてきますので、申込は不要になりました。しかし、前年度に受診していない人は、申込が必要です。同封しました申込書に記入し、長崎市原爆被爆対策部援護課へFAXしてください。

また、インターネットで二世健診を申しこむことができます。長崎県内在住者は長崎市のサイトで申し込むと、長崎市が長崎県へ申込書を転送してくれます。（注意）電話での申し込み受付はありません。

二世健康診断の内容を良いものに変えていくためにも、時間を作って二世健診をみんなで受診しましょう！！
（柿田富美枝・事務局長）

会員の田中節子さんが闘病生活を続けておられましたが、12月に亡く
なられました。インカニャンのコンサートのとき、
久しぶりに顔を出され、元気そうな笑顔だったこと
が思い出されます。

ご冥福をお祈りいたします。



被災協・被爆二世の会・長崎 2017年度総会

と き：5月13日（土）10時～正午

ところ：被災協地下講堂にて

これからの二世の会活動について、それぞれの思いを出し合
い、じっくり話しましょう。

ぜひ、ご参加ください！！

◆会費納入のお願い◆

会費は1年間3,000円、あるいは半年分ずつの1,500円になっていま
す。郵便振替「01730-6-123957」へお振込ください。または
総会や会議等のときにお持ちくださいますよう、お願いいたします。

○●カンパをいただき、ありがとうございました●○

船山忠弘さん、谷口稜暉さん、松尾幸子さん、田中重光さん、
川口重美さん、松谷英子さん

